

令和元年度

# 学生によるオレンジリボン運動

## びわこ学院大学 実施報告書



実施主体 びわこ学院大学教育福祉学部子ども学科榎本ゼミ

実施内容 手がた足がたを用いたベイビーインカーステッカーづくり

### ①事前に取り組んだ内容

オレンジリボン憲章の「2. 私たちは、家族の子育てを支援します。」「4. 私たちは地域の連帯を拡げます。」に着目し、学生が地域の子育て家庭に喜んでもらえる活動を考えることとした。

はじめに乳幼児期の子育て家庭がどのような「しんどさ」を抱えているのか、実際にどのような支援があるのかについて①文献研究、②実践現場の見学を通して学んだ。文献研究では、孤育て（こそだて）、アウェイ育児といった自分が生まれ育ったところとは別の地域で孤立して子育てし、誰にも助けを得にくい現状があることを学んだ。これら文献等による学習を踏まえ、実際に親子が集う子育て支援センターを見学し、職員や利用者に関わりながら実際の子育てを取り巻く課題を体感した。

これらの事前学習を活かし、親子が少しでも楽しめる時間をもてる学生らしい活動を考えた。オレンジリボン運動は「子ども虐待防止」の意味があるが、地域の学生が地域の子育てに関心を持ち、支えたいという気持ちをもっていることを伝えることで間接的に虐待防止を目指すこととした。

### ②実施期間に取り組んだ具体的内容

12月18日（水）10:00～11:00 in 八日市子育て支援センターでの取り組み

活動題目『世界にひとつだけ！オリジナルベイビーインカーステッカーをつくろう』

- ・オリジナル紙芝居「それいけオレンジリボンマン」の読み聞かせ
- ・オリジナルベイビーインカー（キッズインカー）ステッカーの作成。ステッカーは子どもの手がた or 足がたとオレンジリボンマークを組み合わせたもので、それぞれ世界にひとつだけのオリジナルの作品になった。
- ・質問紙調査をおこなった。①オレンジリボンを知っているか、②主な子育ての担い手と夫婦等の役割分担について、③ストレスについて、④活動の感想から成り、今後のオレンジリボン運動や学習に役立てることができるようにした。

#### 事前に工夫した点

- ・オレンジリボン運動のオリジナルキャラクター「オレンジリボンマン」を開発し、よりオレンジリボンに親子が親しみをもてるように工夫した。
- ・オレンジリボン運動についての説明等を盛り込んだ紙芝居「それいけオレンジリボンマン」を作成した。オレンジリボン運動の意義や子育ての大変さ、それを支えたい学生の思いをつめこんだストーリーで子どもも親も楽しめるよう工夫した。内容は事前学習の内容を活用している。

### ③オレンジリボン運動を終えて・・・

学生らしく、親子に楽しんでもらえる活動を考えよう！をテーマに試行錯誤して当日の『ベビーインカーステッカーづくり』活動に挑みました。

はじめての試みで親子が集まってくれるか不安もありましたが、事前にポスターを作成し、子育て支援センターで宣伝させていただいたところ、当日は約40組の親子が参加してくださりました。

それぞれ好きな色(ピンク or ブルー)と手がたか足がたのどちらかを選んでとってもらいました。

保護者からは、「記念になる」、「うれしい」、「たのしみ」といった声もたくさん聞かせていただくことができ、単にオレンジリボン運動とは何かを広めるにとどまらず、楽しんでいたことがよかったですと感じています。

今回、ゼミとしてははじめての試みでしたが、これをきっかけに毎年地域のさまざまな場所で学生らしく、親子に楽しんでもらえるオレンジリボン運動に継続的に取り組んでいきたいと感じました。オレンジリボン運動は子育て家庭と学生がふれあうきっかけにもなりました。

今回は紙芝居に登場しただけであまり活躍の機会が見出せませんでした。オリジナルキャラクター「オレンジリボンマン」も作成しました。今後はこのキャラクターを通じて子どもたちに楽しんでもらえるようなことも考えていきたいと思っています。

